上高井教育会報

第236号
発行所　上高井教育会
発行人　上高井教育会理事長　岡田憲和
編集人　会報編集委員長　川本修一
印刷所　須坂新聞社

共に学び つながりを深める教育会

上高井教育会理事長　岡田憲和

本年度、一般社団法人上高井教育会理事長を務めさせていただきます、高山小学校の岡田憲和です。もとより微力ではありますが、職務の重要性と責任を深く認識し、教育会発展のために努力する所存でございます。皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い致します。

さて、上高井教育会は、信濃教育会が発足する一年前の明治十八年（一八八五年）に上高井郡私立教育会として創立され、百三十七年目を迎えます。多くの先輩の先生方が大切にされ築いてこられた「みんなで共に創る教育会」、そして「不易流行」の精神を基にして、「子どもと共に自らの力を伸ばす」職能向上の思いと、「仲間と共に学ぶ」協働の思いを引き継ぎ、さらに発展させていきたいと考えています。

さて、多様化する社会の中で、将来の変化を予測することが困難な時代を迎えています。また、社会的変化の影響が、身近な生活を含め、社会のあらゆる領域に及んでいる中で、教育の在り方も新たな場面に直面しています。そこで、私たちは、不易なるものを大切にしつつも、様々な研修を通してしなやかな自分軸をつくり上げていく必要があります。先日、ある会議で「研修は未来の自分への投資である」との言葉を聞きましたが、本教育会の事業が皆様方にとっての未来につながる充実した学びの場となるよう努めていきたいと思います。

その事業の中で大切にしている職能向上の大きな柱、郡の研究委員会では、本年度も信州大学の畔上一康先生を中心講師としてお迎えし、「子どもと共に創る授業　～子どもの学び・教師の学び～」をテーマに、互いの実践に学び合い、そして授業を通して職能の向上を図っていきたいと考えています。畔上先生からは、未明の可能性を宿す子どもと協働的探求者である教師が共に学んでいく授業について、「主体的・対話的で深い学び」に寄せてご指導をいただいています。今年度の総集会では、子どもと教師の主体性から学びにおける対話をどう考えるか、新たな視点をいただいております。私たちは、常に学ぶ側の論理に立ち、子どもの文脈を軸に子どもと協働的探求者である教師によって、どの教室でも子どもが生き生きと学習活動に取り組み、力を伸ばしていく姿を求め、研修を重ねていきたいと考えます。

また、同好の仲間が集い、教師としての専門性や教養を高め、教員としての日々の生活を豊かにする同好会も、仲間とつながり合い、共に学び合う貴重な研修の場です。夏休みには、夏期講座として講習・講演・巡検等が集中して企画されています。

さらに、夏の講演会では、長野県出身でJAXAの宇宙飛行士である油井亀美也先生をお招きし、『宇宙で気付いた大切な事』と題してご講演をいただきます。国際宇宙ステーションで過ごした体験を踏まえ、宇宙の神秘や面白さ、そこで気付いたことについて貴重なお話をお伺いすることができると思います。ご期待ください。

教育会は教職員のため、子どもたちのためにあります。仲間とともに活動する様々な研修は、私たち一人一人の教職員としての資質向上につながります。教育会には、自主的・主体的な研修の場があります。必要感と誇りをもって、自ら求め参加していただける上高井教育会を共に創り上げたいと願っております。ご協力宜しくお願い致します。

（高山小）

教育会だより

4・1　各校にて代議員及び信教代議委員選挙
4　第一回総会　○新役員の承認
11　第一回理事会
18　教育会会計監査　第二回理事会
21　研究委員長会①
教研三団体代表者会①
教研推進委員会①
第二回定時社員総会
○令和三年度事業報告及び決算承認
○令和四年度事業計画及び予算承認
25　教研推進委員会②
27　教育会総集会（オンライン）
中心講師講演会
5・6　※研究委員会（同好会　世長会（各会で後日実施）
教研学校代表者会①
20　研究推進委員会②
23　教研推進委員会③
24　新任者研修会・歓迎会（兼 信州教師塾B）
31　同好会②
6・8　第三回理事会
10　教研推進委員会④
14　第三回総会
17　教研分科会　会長司会者打合会
21　研究推進委員会③
7・2　信濃教育会総集会上高井大会（於メセナホール）
5　教研推進委員会⑤（中問連絡会）
8　同好会③
15　教研推進委員会⑥
22　研究委員長会②　中心講師ご指導
29　上高井教育会報第236号発行
教育会夏期講演会・会員発表
8・2～3　同好会夏期講座①～②　同好会④
8・22　教研推進委員会⑦　教学校代表者会②
30　研究推進委員会④（兼 信州教師塾B）
9・2　教研推進委員会⑧　教研分科会長会　同好会⑤
3　上高井教育研究集会
7　第四回理事会
注　※新型コロナウイルス感染症予防対策のため日程変更もありうる

田んぼの先生は地域のみなさん

川原有美子

井上小学校では、地域の推進委員、ふれあい委員の方の協力のもと、毎年五年生が稲作体験学習に取り組んでいます。昔ながらの道具も使って、昨年度は田植えや収穫、脱穀、藁すき、しめ縄作り、餅つきを体験することができました。

田んぼの中では、よく気付く子、みんなが嫌がるような仕事を進んでやる子、地域の方と気軽に話せる子…、普段学校では見られない子どもたちのよさもたくさん見つけられました。体験中、委員の方が「一緒に米作りをしていると、子どもたちがどんどん変わっていくのがわかります。最初は不安げに田んぼへ入っていた子どもの顔が、穂が出るころから輝いてきます。半年後の収穫や、餅つきのころには、みんな自信満々の顔になりますね」と話してくださいました。地域の宝として地域の大勢の大人たちに育まれている井上の子どもたちは本当に幸せだなと実感した時でもありました。

子どもたち自身が、この農業体験を支えてくださった先生や地域の大人たちを、そして自分たちの住んでいる地域を見つめ直すのはもう少し先のことかもしれません。しかし、子どもたち一人ひとりがこの体験をしっかりと心身で受け止めているのは確かだと思います。（井上小）

清涼談義

黒板アート　高山小　小林詩織

初めての学級担任

横田雅

私はこの四月から高山村立高山中学校に赴任し、一学年の担任をしています。私自身、講師経験はありますが、担任を持ったことはなく、今担当しているクラスが私にとって初めてのクラスです。四月一日、担任ということが分かってからは、「私に担任が本当に務まるのか」と、不安に押しつぶされそうでした。そんな中、四月六日の入学式、そして学級開きを迎えたのです。

そこからは一日一日を過ごすのが精一杯で、現在に至るまで怒濤の日々でした。私が担任をするクラスは元気で活発な生徒が多く、授業中は積極的な発言や活動をしてくれる一方、「もう少し落ち着きましょう」と思うこともあります。

しかし、毎日生徒と暮らすことは本当に楽しいです。彼ら彼女らが見せてくれる子どもならではのあどけなさ、そうかと思えば、私の想像を遥かに超えるすばらしい考えや行動の数々、驚きと喜びで毎日が充実した日々です。

私は、これから生徒たちがどのように成長してくれるのかと思うとわくわくした気持ちになります。一方、担任として私自身も生徒に置いていかれないようにしないと、という気持ちも沸いてきます。今の学級をより良い学級にしていくために、生徒と共に学び、成長しながらこれからの日々を過ごしていければと思います。

（高山中）

自分から動くということ

小林志津代

毎年恒例のプール清掃。作業が終わりかけたとき、男子数人が集まっています。見るとかごの中に大量のヤゴが！以前どこかで見た光景。そうです。前に勤務していた学校でも同じことがあり、子どもたちが育て上げたヤゴがトンボになる瞬間を生まれて初めて見て感激したことを思い出しました。

「先生、飼ってもいい？」と言う子どもたち。「もちろんいいけど、どうやって飼う？エサは？水槽は？」と返すと困ったような表情を浮かべました。ここはあえて助け船を出さずに様子を見ることにしました。すると次の日に早速家からバケツを持ってきて学校のバケツからお引っ越し。その後が困った！「エサ問題」です。ヤゴには生きた虫などがエサになることを知っている子どもたち。でも学校にはメダカのエサしかない。

次の日何人かがランドセルも下ろさずヤゴのバケツに集まっていました。様子を見てみると、エサになりそうな小さな魚を捕まえてきて、バケツに入れているではありませんか！何とか小さな命を育てようと自分たちにできることを考えて行動している子どもたち。失敗してもいい。これからも「やってみよう」という気持ちを忘れずにいろんなことにチャレンジしていってほしいです。

（須坂小）

編集後記

令和四年度会報二三六号を発行し、無事お届けすることができました。ご多用のところ、原稿をお寄せいただきました会員の皆様に、心より感謝申し上げます。

皆様からのご意見をいただきながら、より親しみをもって読んでいただける会報を目指して参ります。

委員長　川本修一（小布施中）
副委員長　山口美直（須坂小）
事務局長　川上徳子（須坂支援）
委員　朝倉真理（日野小）
安藤暁子（栗ガ丘小）
市川麻衣子（高山小）
小林誠（小布施中）
今田晴美（高山中）

郡研での研修を通し、授業力を高めよう！

研究委員会会長　新津朋典

上高井教育会の活動の柱の一つに、郡研究委員会（郡研）があります。郡研は他の郡市教育会には見られない、上高井教育会が長年にわたり大切にしてきた活動です。私も上高井教育会の郡研を通し、育てていただき、自分の授業力向上のために、大いに役立たせていただいたように思います。現在、各学校の教員数は減少し、中学校では一人教科や同じ教科の先生が少なく、教科会が成り立ちにくい状況があります。また、小学校でも授業作りに関し、なかなか相談できにくい状況があったりもします。しかし、学校の枠を越え、授業作りについて研修を深め合うことのできる郡研は、同じ教科や領域に関心のある先生方が語り合うことのできる貴重な場です。専門の先生（今年度も中心講師として、信州大学の畔上先生のご指導をいただきます）から教えていただくこともできます。また、郡研は教育課程研究協議会とは異なり、上高井の先生方が脈々と受け継いできた、先生方の主体性を大切にした研究を進めることができます。そういった面からも、価値ある郡研を大切にしていかなくてはいけないと思います。

近年、郡研でも公開授業を通しての研修が減少傾向にありますが、研究委員会での授業作りや公開授業を通し、多くのことを学んでいただけると有り難いです。今年度も、郡研を通し、上高井の子ども達のために、共に研修し、授業力を高めていただけたら、と思います。

（高山中）

今こそつながりを

同好会会長　梅本裕之

「わからないからと言って、そこに留まったまま、何も変えないというのは後退です」と、ある研修会で講師の先生。学習指導要領の改訂、パンデミック、一人一台端末の導入、少子化…。確かに、学校は変化を求められています。私たち教員一人一人も新たな道を開拓すべきときです。でも平成と令和で、何を変えたのか、何が変わったのかと振り返ると、情けない思いの自分に気がつきます。

〝学びたい、自分をアップデートしたい〟という欲求から、本を読んではみても、自分一人では大抵の場合、挫折します。だからこそ、仲間、人間関係、交流が大事なのではないでしょうか。

同好会は、文字どおり同好の人が集い、自発的に自己研鑽することによって、教員としての資質向上や社会人としての経験値アップ、視野の拡大を図れる場です。校種や年代の枠を越えて、様々な方々と交流できるのが同好会です。活動に制限がある状況ではありますが、趣向を凝らした活動で仲間を増やし、互いに情報や発想、考え方、価値観を交換して、自分の殻を破るエネルギーをため込みましょう。また人生を豊かにする趣味の世界に浸りましょう。

同好会活動がさらに盛り上がりますようよろしくお願いいたします。

（旭ケ丘小）

技術・家庭科同好会の活動

技術・家庭科同好会会長　北原大介

技術・家庭科同好会（以下、同好会）では、毎年、夏期講座期間に各校の先生方が集まって活動を行っています。活動の特徴としては、中高飯水の先生方と合同で開催していることが挙げられます。ここには、中学校の技術・家庭科を担当する教員だけではなく、専科ではない小学校の先生方も含め、講座の内容を見て参加する方がいます。同好会では、実践的・体験的な活動を通して学ぶことを大切に考え、昨年度は、ＩＣＴ端末を活用した授業実践の情報交換と、染物体験を行いました。

今年度は、八月三日の午後、中野平中学校を会場に、授業実践の情報交換と、「おやき作り」を行う予定です。平成二十九年告示の中学校学習指導要領では、家庭科の内容「Ｂ食生活と自立」の中で、地域の食文化について扱うこととなりました。信州を代表する郷土料理である「おやき」は、「蒸す」「焼く」「蒸して焼く」「焼いて蒸す」など、様々な調理法があり、包む具材も多種です。私たちの食文化を見つめ、その良さを体感できる講座を企画しますので、興味をもたれた方は是非ご参加ください。

（東中）

生活科や総合で楽しい思い出を作りたい

上高井の総合的な学習を考える会同好会会長　森山知之

みなさんは、生活科や総合的な学習の時間にどんなことを考えながら行っていますか？私は、「子どもたちとの思い出作り」「ちょっとすごい思い出を作りたいね」ぐらいに考えて、子どもたちと、「何しようか？どうしようか？」と一緒に考えていきたいと思っています。

また、子どもたちが学校生活を思い出した時に、「みんなで○○を作ったね」「あの時、よくこんなことできたね」「小学校の時にやった○○楽しかったなあ」みたいな、これからの活力になるような思い出、その時を思い出して「ニコッ」となれるような思い出ができるといいなあとも思います。

でも、そのような思い出作りは、なかなか難しいなあとも思います。例えば、例年通りの活動をしただけでは、「あの時の、あの思い出」にはならないと思います。「あの時の、あの思い出」になるためには、我々教師自身の日々の更新が必要ではないかと考えます。

本同好会では、体験する活動を通して、体験した感覚や気持ちを共有していきたいと考えています。子どもたちと思い出作りをするために、まずは、我々自身が思い出作りをしていくといいのではないでしょうか？

一緒に楽しい思い出を作りましょう！

（日野小）

本校の中核活動

プレイエルにいのちを吹き込む

東中学校

昨年度の冬休み前、校長先生より、「東中・東地区に関わりの深い山岸右京さんについて調べよう」という課題が出され、生徒は家族や親戚に聞き取り等をして調べました。そして、本校開校前、山岸右京さんによりプレイエル製のピアノが寄贈されたことが分かりました。現在、そのピアノはほとんど触れられることがないまま、本校の一階に展示されています。部品や鍵盤は破損しています。

そんな状態を見た生徒から、「当時のような音が出るようにしたい」、「修理にはどのくらいのお金がかかるのか」、「お金はどう工面したらよいか」という感想や疑問が寄せられ、全校で考えていくことになりました。これが本年度の総合的な学習の時間「プレイエルにいのちを吹き込む」のスタートです。

五月に生徒の要望で、調律技能士の米山宏貴さんにお話を伺い、質問に答えていただく時間を設けました。現在は、全校生徒が自ら選択した「情報発信」、「イベント企画」、「資金集め」の三つのグループに分かれ、活動を始めています。私達教師の担当も自ら選択しました。生徒主導の探究型の授業…。生徒がどのように動いていくのか、教師はどのような役割を担ったらよいか等不安もあります。しかし、答えのない問いを協働しながら解決していく時代。私達も楽しみながら生徒の探究心や問題解決能力を高めていけるように、一緒に考えていこうと思います。今後、生徒の考えをすり合わせ、形にしていくのがとても楽しみです。

（下崎　大吾）

本校の宝 79

日野小学校 勇気をもらえる「校歌」

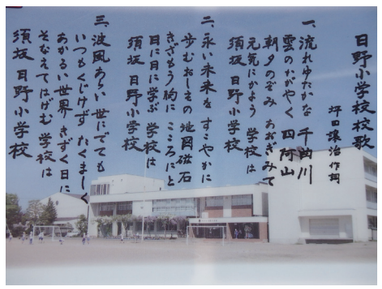
日野小学校の校歌は、昭和三十七年度に制定され、この年本校は開校五十周年を迎え、記念事業式典が行われました。

当時のＰＴＡ会長黒岩久雄さんの提唱と、徳永哲夫先生の働きかけにより、作詞は坪田譲治先生、作曲は国立音楽大学の岡本敏明先生にお願いし、昭和三十七年三月に、坪田、岡本両先生をお招きし、盛大に発表会が行われました。また、山岸春雄さん寄贈の校歌碑は、今も校門前で、じっと子ども達の成長を見つめ、見守ってくれています。

私は三年前に日野小学校へ赴任し、毎朝校門をくぐる度校歌碑を目にします。初めてそれを目にした時は、そのずっしりとした佇まいと見事な花々との共演に学校の歴史の重みを感じつつ、ここでできることを精一杯やろう、と心に誓ったことを思い出します。

日野小学校では、四月の音楽集会で「校歌」を扱っていますが、未だ全校で歌い合わせることができない現状です。そこで、四月の登下校の放送で校歌をながしたり、歌詞にある、川や山の紹介を取り混ぜて、歌詞と音楽がながれるようにしたものを学級で見ながら練習してもらったりしています。また、毎年入学式では、新入生に向け六年生が、歓迎の校歌を歌っています。

校歌に歌われている千曲川は子ども達にも馴染み深く、四阿山は、日野小学校から望む毎年五年生が登山している根子岳に架かって聳えているようにも見え、「川のように豊かな心で、山の高みを目指し励めよ」と言ってくれているようです。くじけず、たくましく生きていくための力となる校歌をこれからも大切に歌っていきたいです。

（山口　理恵子）

QRコードで校歌が聞けます